

# TRAFFIC SCOPE

「TRAFFIC SCOPE」は交通参加者の行動観察を通じて、ドライバーやライダー、自転車利用者、歩行者に守るべきルールがあることを再認識してもらうための連載記事です。

交通参加者の行動を観察する

## 保護者は一緒に歩いている子どもと手をつないでいるか？

### DATA 基礎情報

6歳未満の子どもをひとり歩きさせてはいけない

道路交通法では、子どもの道路通行について「児童（6歳以上13歳未満）もしくは幼児（6歳未満）を保護する責任のある者は、交通のひんばんな道路または踏切もしくはその附近の道路において、児童もしくは幼児に遊戯をさせ、または自らもしくはこれに代わる監護者が付き添わないで幼児を歩行させてはならない」と規定してい

る。幼児の保護者は一緒に歩いて出かける際も、子どもの行動には十分に注意しなければならない。

その一方、歩行中の幼児が第1当事者※となった交通事故件数（2021年）を法令違反別にみると、半数以上（42件中22件）は「飛び出し」である。これらの事故は、一緒にいる保護者が子どもと手をつないでいれば防げたかもしれない。今回は、神奈川県内と東京都内の歩道のない道路で親子連れの行動を観察した。

※交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者または過失が同程度の場合は被害が最も軽い者

### WATCHING 観察

子どもが幼児の場合は手をつなぐ保護者が多い

観察場所Aは横浜市青葉区内の駅の近くにある商店街の道路。2時間の観察中、保護者と一緒に歩いていた子どものうち、保護者と手をつないでいた割合は幼児76.1%、小学1～2年生43.3%、3～6年生36.0%だった。

観察場所Bは東京都練馬区内の駅前の商店街と、その周辺の道路。2時間の観察中、保護者と一緒に歩いていた子どものうち、保護者と手をつないでいた割合は幼児66.1%、小学1～2年生30.4%、3～6年生20.7%だった。



幼児は保護者が手をつないでいないと突然、走り出してしまうことがある

観察場所A、Bとも、子どもが幼児の場合は手をつなぐ保護者が多かったが、手をつないでいない保護者も存在した。手をつながないのは買い物袋などで保護者の両手がふさがっている、ベビーカーを両手で押している場合などが多かった。

手をつないでいない幼児や低学年の小学生は保護者と並んで歩かず、さらに、保護者の前後を行ったり来たりする様子が見られた。子どもが車道側に行こうとすると、「そっちは危ないよ」とたしなめる保護者がいた一方で、子どもが立ち止まっているにもかかわらず、どんどん先に行ってしまう保護者もいた。

また、子どもと並んで歩いている保護者は自分が車道側に立ち、子どもを車道から遠ざけるケースが多かった。

### ADVICE アドバイス

子どもの予期しない行動に対応するために手をつなぐ

幼児は好奇心旺盛で興味を持ったことに夢中になって、大人が予期しない行動をとることがある。そのため、保護者による事故防止対策が重要になる。

手をつないでいないケースでは、子どもが突然、走り出した時に保護者の対応が遅れるように感じられた。手をつなぐことで、車道への飛び出しを防ぐことが期待できるだけでなく、手をつないで保護者と

接近して歩行することにより、ドライバーの見落としによる事故を低減できる可能性もある。歩道がない道路では、幼児はもちろん小学生でも手をつなぐことが望ましいといえるだろう。特に、子どもが興味や関心を持ちそうな場所を通る時は、手首をしっかり握っておくことも大切だ。さらに、保護者が車道側を歩き、子どもを車道から遠ざけることも事故防止につながる。そして、ドライバー・ライダーは歩道のない道路で子どもの近くを通る際、スピードを落とすことはもちろんだが、子どもの飛び出しを予測した運転をする必要がある。

### 観察結果

#### 観察場所 A

横浜市青葉区美しが丘  
観察日/2月11日(土)  
観察時間/14:00～16:00  
天候/晴れ



保護者二人が両側から子どもと手をつないでいる様子

#### ●子どもと保護者の手つなぎ状況と子どもの位置 (人)

		子どもの年齢層		
		幼児	小学1～2年生	小学3～6年生
手つなぎ状況	つないでいる	35 (76.1%)	13 (43.3%)	9 (36.0%)
	つないでいない	11 (23.9%)	17 (56.7%)	16 (64.0%)
小計		46	30	25
子どもの位置	車道から遠い	31 (67.4%)	23 (76.7%)	17 (68.0%)
	車道に近い	4 (8.7%)	3 (10.0%)	5 (20.0%)
	保護者と並んでいない	11 (23.9%)	4 (13.3%)	3 (12.0%)
小計		46	30	25

\*幼児、小学1～2年生、小学3～6年生の判断は観察者の見解による



保護者が両手に買い物袋を持っているため、子どもと手をつないでいない



ベビーカーを押している保護者も、子どもと手をつながないことが多かった

#### 観察場所 B

東京都練馬区中村北  
観察日/2月18日(土)  
観察時間/14:00～16:00  
天候/晴れ



クルマが通り過ぎるのを待ってから電信柱を避ける親子

#### ●子どもと保護者の手つなぎ状況と子どもの位置 (人)

		子どもの年齢層		
		幼児	小学1～2年生	小学3～6年生
手つなぎ状況	つないでいる	41 (66.1%)	7 (30.4%)	6 (20.7%)
	つないでいない	21 (33.9%)	16 (69.6%)	23 (79.3%)
小計		62	23	29
子どもの位置	車道から遠い	35 (56.5%)	8 (34.8%)	10 (34.5%)
	車道に近い	10 (16.1%)	3 (13.0%)	5 (17.2%)
	保護者と並んでいない	17 (27.4%)	12 (52.2%)	14 (48.3%)
小計		62	23	29



子どもが立ち止まったことに気づかず、先に行ってしまう保護者



保護者と手をつないでいない子どもが車道中央に出てしまうこともあった